

## フットケア専門外来の取り組み

外来・入所者診療室 中島美香 西川民子 飛松好子  
丸山貴之 関口進

### 【1.フットケア専門外来の背景】

フットケア専門外来を開設してから約1年半が経ち受診者数が700人を越えた。受診目的では、爪変形、足変形による問題の相談が開設当初と同様多くの割合を占めている。爪変形では正しい爪きりの方法や手入れによって爪周囲の創傷の再発が予防され、足変形では装具によって個性にあった快適な歩行が可能になってきた。また、糖尿病性壊疽による下肢切断者の健足のフットケア受診者も増えてきている。この糖尿病性壊疽による下肢切断者の受診は義足管理をしている補装具製作部からの相談で数例実現し定期的に診ている。糖尿病合併症による下肢切断の予防にも貢献している。

### 【2.当院フットケア専門外来の特徴】

- (1)障害の有無、糖尿病の有無、年齢制限のない受診が可能
- (2)靴、足底板以外にも長短下肢装具、靴型装具の修正、作製が可能
- (3)医師、看護師、補装具製作技師、理学療法士が同席し、迅速な対応が可能
- (4)糖尿病フットケアの診療報酬算定施設基準に準じて糖尿病合併症管理料の算定が可能

### 【3.症例紹介】

35歳。男性。糖尿病歴11年。糖尿病網膜症、糖尿病性腎症あり。平成19年に右足趾に潰瘍を生じた。当センター入所中、平成21年6月左蜂窩織炎（左足糖尿病性潰瘍）と診断され、治療目的にて他院入院となった。感染の原因は足趾の変形から胼胝が生じ、その胼胝からの感染だった。入院中靴型装具を作製したが装具の評価をする前に退院となった。当センターに戻り住居は和室で靴型装具が使用できない環境だった。退院後1ヶ月たらずで、左足底の胼胝から出血するようになり潰瘍が再発した。靴型装具による胼胝部分の除圧が必要であった。外来で靴型装具の評価しケースワーカーと相談し住居環境を洋室に変え、装具の着用を常時可能にした。洋室に移動後、潰瘍は軽快していった。その後も毎日看護師が創部を観察し患者とともに足部のケアをしている。

### 【4.今後の課題】

- (1)職員のフットケアへの関心を高め、フットケアの知識と技術の標準化
- (2)患者教育（足病変の予防方法、フットケア方法）の確立
- (3)専門外来の特性を活かし、患者に十分なケアを行う為のマンパワーの確保

### 【5.おわりに】

フットケアにおいては、多職種の協働のもとに、利用者の足だけに目をむけるのではなく、生活状況、セルフケア状況、皮膚損傷、身体防衛機能の低下に関する要因をアセスメントし予防的な視点を持って関わっていくことが重要である。毎日何万歩も歩き、私たちの体を支えている足と健康と患者のQOLの維持・向上をサポートしていきたい。